

久万高原町 学校施設の長寿命化計画

令和3年2月

久万高原町教育委員会

【 目 次 】

▼ (1) 学校施設の長寿命化の背景・目的等	1
① 背景	1
② 目的	1
③ 計画期間	2
④ 対象施設	2
▼ (2) 学校施設の目指すべき姿	3
▼ (3) 学校施設の実態	4
① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	4
1) 対象施設一覧	4
2) 児童生徒数及び学級数の変化	6
3) 学校施設の配置状況	7
4) 施設関連の経費の推移	8
5) 学校施設の保有量	10
6) 今後の維持・更新コスト（従来型）	11
② 学校施設の老朽化状況の実態	12
1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価	12
2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）	14
▼ (4) 学校施設整備の基本的な方針等	15
① 学校施設の規模・配置計画等の方針	15
1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針	15
2) 学校施設の規模・配置計画等の方針	16
② 改修等の基本的な方針	17
1) 長寿命化の方針	17
2) 目標使用年数、改修周期の設定	19
▼ (5) 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等	20
① 改修等の整備水準	20
② 維持管理の項目・手法等	21
▼ (6) 長寿命化の実施計画	22
① 改修等の優先順位付けと実施計画	22
② 長寿命化コストの見通し、長寿命化効果	23
▼ (7) 長寿命化計画の継続的運用方針	24
① 情報基盤の整備と活用	24
② 推進体制等の整備	24
③ フォローアップ	24

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 背 景

久万高原町は面積 583.69 k m²と県内で最も広く、学校施設は平成 16 年の市町村合併以前に旧町村で整備していたため、広範囲に点在しています。児童・生徒数は年々減少傾向にあり、平成 20 年度に面河中学校、平成 26 年度に柳谷中学校がそれぞれ美川中学校に統合しましたが、幼稚園、小学校は統合せずに、小規模校として継続して学校運営を行っています。

これまで、施設は躯体の耐震を優先した改修（改築）工事を行い、平成 29 年度に老朽化と衛生管理面を含め、久万学校給食センターを改築しました。学校施設は全部で 38 棟※（内 2 棟が給食センター）ありますが、今後 10 年の内に築後 40 年を超える建物が増えていきます。

各学校施設の維持管理や修繕、改修等に多額の費用が必要になってきますので、改めて各建物の状況や築年数を踏まえ、安全性の確保や社会的要求に沿った改修、その時期や規模等を定めた中長期的な整備計画を策定することが求められています。

※ 幼稚園舎以外の概ね 200 m²以下の建物は除く。

② 目 的

「久万高原町学校施設の長寿命化計画（以下、「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえて、学校施設を総合的観点で捉えて、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・改築するとともに、安心安全な施設環境、教育環境の質的改善も考慮しながら、改修・改築等を検討するための詳細診断の優先的順位を設定しつつ、これに要する将来コストの縮減と平準化を図ることを目的に策定します。

今までは、老朽化の進んだ学校施設は 40～50 年程度で改築を行ってきましたが、学校施設だけでなく町内の多くの公共施設が更新時期を迎えていますので、現有する学校施設を躯体の耐用年数まで長く使い続ける長寿命化改修に取り組むことで、中長期的な財政負担の軽減を目指します。

※この計画では、次のように定義して記載しています。

改 築 : 今ある建物を取り壊し、建て替えること。

改 修 : 不具合が生じている箇所・今後不具合が生じると思われる箇所等について、元の状態または性能や機能の向上を加え直すこと。

修 繕 : 不具合が生じている部分等について、元の機能・性能に状態を直すこと。

③ 計画期間

本計画は、2020年度（令和2年度）から2059年度（令和41年度）の40年間の整備保全計画としており、5年を目安に見直しを行うこととします。

なお、近年は少子化が著しいことから、計画見直し前においても、学校施設を取り巻く環境が地域実状等から大きく変わった際には、必要に応じて計画の修正を行います。

④ 対象施設

本計画における対象施設は、本町にある幼稚園9園、小学校9校、中学校2校の合計20校（園）の学校施設と、共同調理場の給食センター2つの23施設となっています。校舎・園舎等の建物は38棟あり、構造はRC造や鉄骨造だけでなく、本町の特徴を生かした木造の校舎や体育館が多くあります。（廃校等の施設や200㎡を下回る建物（幼稚園を除く）は本計画の対象外としています。）

対象施設

幼稚園	小学校	中学校	給食センター
1 明神幼稚園	1 明神小学校	1 久万中学校	1 久万学校給食センター
2 久万幼稚園	2 久万小学校	2 美川中学校	2 美川学校給食センター
3 畑野川幼稚園	3 畑野川小学校		
4 直瀬幼稚園	4 直瀬小学校		
5 父二峰幼稚園	5 父二峰小学校		
6 おもご幼稚園	6 面河小学校		
7 仕七川幼稚園	7 仕七川小学校		
8 美川幼稚園	8 美川小学校		
9 柳谷幼稚園	9 柳谷小学校		

	学校数	校舎	体育館	その他
小学校	9校	13棟	8棟	0棟
中学校	2校	2棟	4棟	1棟 ※寄宿舎
幼稚園	9園	9棟	0棟	0棟
給食センター	2センター	0棟	0棟	2棟

※ 武道場は体育館に含む。

※ 対象施設は、延べ床面積200㎡以上のもの

※ 文化財施設・社会体育施設等は対象外とする。

(2) 学校施設の目指すべき姿

< 安全性 >

学校施設は、子どもたちが学校生活を安全・安心に過ごせるよう教育環境を整備するとともに、災害時には地域住民の避難所となることから、耐震性を備えるとともに、大規模な地震や大雨等による土砂災害、河川の氾濫に伴う水害等にも対応できる施設として整備していく必要があります。

さらに、施設（躯体）の耐震化率は100%を達成していますが、非構造部材の落下を防止するための耐震化対策にも取り組み、災害時の避難所としての機能を確保する必要があります。

また、地域に開かれた学校としてコミュニティスクールを推進する一方、不審者等の対策として地域住民の見守り等と連携した防犯対策を強化していく必要があります。

< 快適性 >

本町の学校施設は、国のブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金を活用し、令和元年度に主要教室等へのエアコン整備を終え、夏季の暑さ対策が完了したところですが、スロープや洋式トイレについては、学校の意見を踏まえながら随時整備を図っているところです。将来にわたって子どもたちが快適に過ごせる学校施設環境の整備を継続して図っていく必要があります。

学校施設のトイレは、昨今の家庭環境の状況に伴い、洋式化が求められていますが、校舎内は和式の比率が多い状況にあります。また、車椅子対応のトイレについては、スペースの関係等から大きな改修が必要であり、整備が進んでおらず、今後の大規模改修や長寿命化改修に合わせ、ニーズに即した環境を整備することが課題となっています。

< 学習活動の適応性 >

確かな学力の定着を目指し、習熟度別学習や少人数指導等、多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる空間や、教育の情報化に対応したICT環境の整備が重要となっています。

また、空き教室を有効に活用（学校内活用だけでなく公民館等の社会教育施設とも連携）できるような可変構造や、発達障がい等子どもの特性に配慮した施設設計など、将来を見据えた効率的で効果的な施設整備を行っていく必要があります。

< 環境への適応性 >

高効率な照明や冷暖房効率の向上、自然採光や自然エネルギーの活用など、環境負荷の低減を図ることが可能な施設整備が求められています。

< 地域の拠点化 >

地域に開かれた学校とするため、保護者や地域住民が訪れやすい環境とし、特に屋内運動場は学校開放事業でも地域住民の利用が高いことから、放課後や夜間における安全な利用を考慮した施設整備を行う必要があります。

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

本町には、幼稚園9園、小学校9校、中学校2校の合計20校（園）の学校施設がありますが、学校種別面積は、幼稚園：2,787㎡、小学校：21,288㎡、中学校：9,735㎡で、合計33,810㎡となっています。1校あたりの園児・児童・生徒数は少なく、複式学級や少人数学級が増えており、各学校が空き教室となったスペースの活用を図っています。

施設一覧

(平成30年5月1日 時点)

名 称		住 所	床面積	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別 支援
幼稚園	1 明神幼稚園	久万高原町東明神甲698番地1	238	3	—	2	—
	2 久万幼稚園	久万高原町上野尻甲751番地1	711	34	—	3	—
	3 畑野川幼稚園	久万高原町上畑野川甲521番地1	242	10	—	2	—
	4 直瀬幼稚園	久万高原町直瀬甲3974番地3	234	5	—	1	—
	5 父二峰幼稚園	久万高原町露峰甲364番地	237	7	—	2	—
	6 おもご幼稚園	久万高原町洪草2314	294	3	—	2	—
	7 仕七川幼稚園	久万高原町東川207番地1	323	3	—	1	—
	8 美川幼稚園	久万高原町大川4333番地	322	6	—	2	—
	9 柳谷幼稚園	久万高原町柳井川3542番地	186	3	—	2	—
幼稚園計			2,787	74	—	17	—
小学校	1 明神小学校	久万高原町東明神甲698番地1	2,247	13	0	3	0
	2 久万小学校	久万高原町上野尻甲846番地	3,948	155	6	7	2
	3 畑野川小学校	久万高原町上畑野川甲521番地1	2,160	16	1	3	1
	4 直瀬小学校	久万高原町直瀬甲3974番地3	2,095	9	1	3	1
	5 父二峰小学校	久万高原町露峰甲364番地	2,118	17	0	3	0
	6 面河小学校	久万高原町洪草2314	1,376	8	1	3	1
	7 仕七川小学校	久万高原町東川207番地1	1,699	8	0	3	0
	8 美川小学校	久万高原町大川4333番地	2,076	13	1	3	1
	9 柳谷小学校	久万高原町柳井川3542番地	3,569	8	0	3	0
小学校計			21,288	247	10	31	6
中学校	1 久万中学校	久万高原町久万600番地	6,237	147	3	5	1
	2 美川中学校	久万高原町上黒岩2890番地	3,498	35	0	3	0
中学校計			9,735	182	3	8	1
幼小中学校合計			33,810	503	13	56	7

学校別建物の内訳

	学校		建物	構 造	階数	延べ床面積	建築年	耐震性
1	明神幼稚園	1	園舎	RC:鉄筋コンクリート	1	238	昭和58年	新耐震基準
2	久万幼稚園	2	園舎	RC:鉄筋コンクリート	2	711	昭和52年	耐震性あり(Is値0.72)
3	畑野川幼稚園	3	園舎	RC:鉄筋コンクリート	1	242	昭和61年	新耐震基準
4	直瀬幼稚園	4	園舎	W:木造	1	234	平成3年	新耐震基準
5	父二峰幼稚園	5	園舎	W:木造	1	237	平成14年	新耐震基準
6	おもご幼稚園	6	園舎	W:木造	1	294	平成22年	新耐震基準
7	仕七川幼稚園	7	園舎	W:木造	1	323	平成16年	新耐震基準
8	美川幼稚園	8	園舎	W:木造	1	322	平成16年	新耐震基準
9	柳谷幼稚園	9	園舎	RC:鉄筋コンクリート	3	186	平成17年	新耐震基準
10	明神小学校	10	校舎	W:木造	2	887	平成7年	新耐震基準
		11	校舎	RC:鉄筋コンクリート造	2	762	昭和58年	新耐震基準
		12	屋体	RC:鉄筋コンクリート造	1	598	昭和56年	耐震補強済(平成20年)
11	久万小学校	13	校舎	RC:鉄筋コンクリート造	3	1,829	昭和57年	新耐震基準
		14	校舎	W:木造	2	1,406	平成19年	新耐震基準
		15	屋体	RC:鉄筋コンクリート造	1	713	昭和52年	耐震補強済(平成20年)
12	畑野川小学校	16	校舎	W:木造	2	1,607	昭和63年	新耐震基準
		17	屋体	S:鉄骨造、軽量鉄骨造	1	553	昭和41年	耐震補強済(平成20年)
13	直瀬小学校	18	校舎	W:木造	2	1,536	平成3年	新耐震基準
		19	屋体	W:木造	1	559	平成20年	新耐震基準
14	父二峰小学校	20	校舎	W:木造	1	1,520	平成13年	新耐震基準
		21	屋体	W:木造	1	598	平成19年	新耐震基準
15	面河小学校	22	校舎	W:木造	1	1,376	平成22年	新耐震基準
16	仕七川小学校	23	校舎	W:木造	1	565	平成26年	平成26年
		24	校舎	RC:鉄筋コンクリート造	2	527	平成9年	新耐震基準
		25	屋体	RC:鉄筋コンクリート造	1	607	平成9年	新耐震基準
17	美川小学校	26	校舎	W:木造	2	1,506	平成15年	新耐震基準
		27	屋体	S:鉄骨造、軽量鉄骨造	1	570	昭和54年	耐震性あり(Is値0.71)
18	柳谷小学校	28	校舎	RC:鉄筋コンクリート造	3	2,458	平成17年	新耐震基準
		29	屋体	W:木造	2	1,111	平成15年	新耐震基準
19	久万中学校	30	校舎	W:木造	2	4,163	平成11年	新耐震基準
		31	屋体	W:木造	1	1,484	平成11年	新耐震基準
		32	屋体	W:木造	1	590	平成23年	新耐震基準
20	美川中学校	33	校舎	RC:鉄筋コンクリート造	3	1,849	昭和61年	新耐震基準
		34	屋体	S:鉄骨造、軽量鉄骨造	1	739	昭和46年	耐震補強済(平成15年)
		35	屋体	S:鉄骨造、軽量鉄骨造	1	370	平成5年	新耐震基準
		36	寄宿舎	RC:鉄筋コンクリート造	2	540	昭和61年	新耐震基準

学校・構造・建物別一覧

	校 舎	屋 体	武道場	寄宿舎	合 計
木 造	14	4	1	0	19
幼稚園	5	—	—	—	5
小学校	8	3	—	—	11
中学校	1	1	1	0	3
鉄 筋	9	6	1	1	17
幼稚園	4	—	—	—	4
小学校	4	5	—	—	9
中学校	1	1	1	1	4

※ 鉄筋はRC造と鉄骨造の両方であり、校舎はRC造、体育館は鉄骨造（鉄骨とRC造の複合含む）となっています。

2) 児童生徒数及び学級数の変化

小学校、中学校の児童・生徒数及び学校数の変化は下記のとおりです。

児童・生徒の減少が進んでおり、学校数自体が減少しています。(児童・生徒数及び学校数の数値は町村合併した、旧久万町、旧美川村、旧面河村、旧柳谷村の4町村の合計を記載しています。)

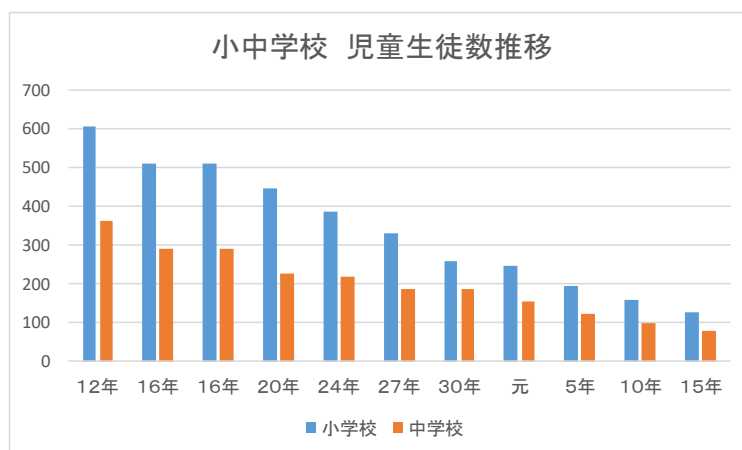
児童数は平成12年と比較して、平成30年には約42%まで減少しており、生徒数は約50%まで減少しています。

学校数は、町村合併前から比較し、町村合併時には小学校は4校減少し6割となっています。合併以後に幼稚園・小学校数に変動はありませんが、中学校は町村合併前と比較して、学校数が半分の2校になりました。

小学校は児童数の減少する中、特に学校数の変化はありませんが、1学年あたりの児童数が減少傾向にあり、複式学級の増加や新入学児童が0人の年の学校も出る状況にあります。

<児童・生徒数>

	これまでの推移							今後の推計		
	12年	16年 (町村合併)	20年	24年	27年	30年	元	5年	10年	15年
小学校	606	512	447	389	330	257	246	196	157	125
中学校	365	290	227	219	188	185	155	123	99	79
合 計	971	802	674	608	518	442	401	319	256	205



<学校数推移>

学校数

	これまでの推移							今後の推計	
	H12年	H16年 (町村合併)	H20年	H24年	H27年	H30年	R元年	R5年	R10年
小学校	14	10	9	9	9	9	9	9	9
中学校	4	4	4	3	2	2	2	2	2

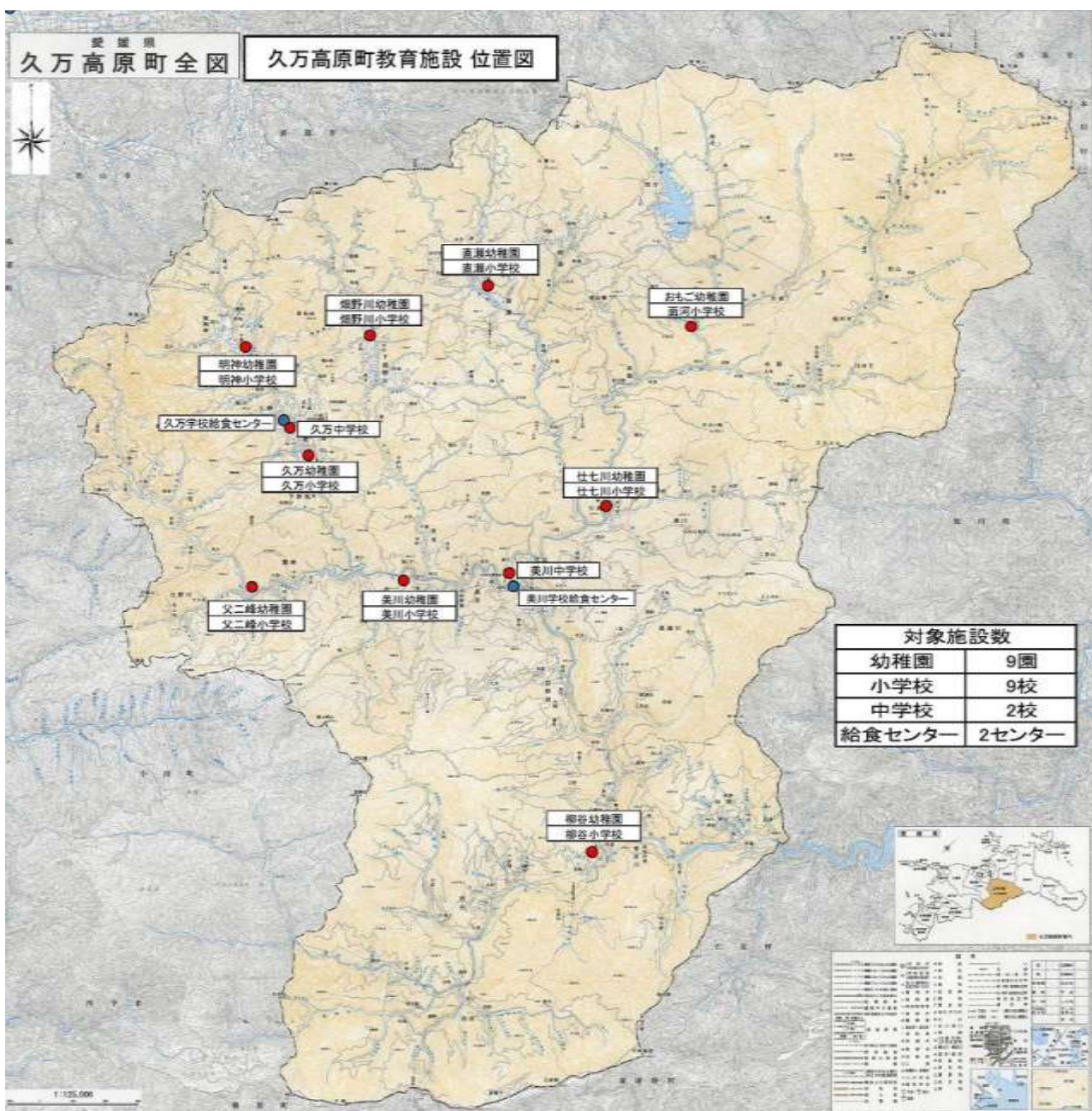
※今後の推計は町の情勢により変動が考えられます。

3) 学校施設の配置状況

久万高原町全体における人口は年々減少しており、児童・生徒数も減少しています。1校（園）あたりの児童（園児）数は、減少していますが、幼稚園・小学校数は平成18年から変化はなく、久万地区を除く、旧村の地区に現存しています。中学校は町村合併時に旧4町村の各中学校（4校）が残っていましたが、生徒数の減少に伴い統合し、平成27年度から2校になるなど、厳しい状況となっています。

学校給食センターは、各中学校付近に1センターずつあり、旧久万町地区と旧美川村、旧面河村、旧柳谷村地区の2地区に分かれて運営を行っています。

<令和2年4月1日現在における教育施設の配置状況>



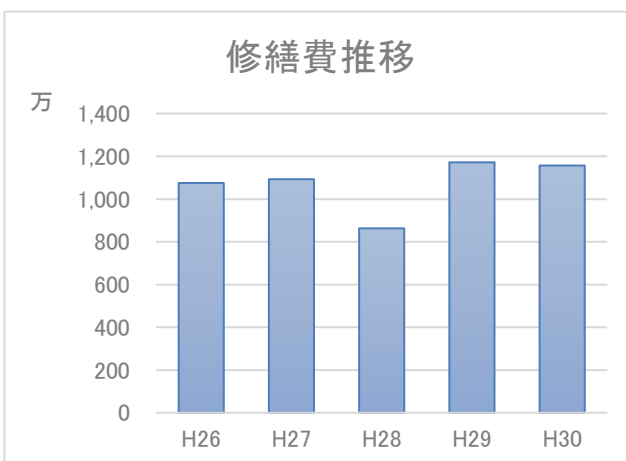
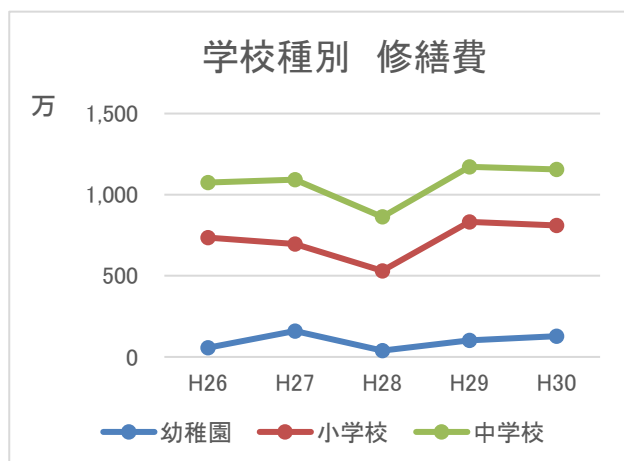
4) 施設関連経費の推移

平成 26 年～平成 30 年度の 5 年間の学校教育施設の関連経費は、維持管理等に係る修繕費と運営に係る光熱水費を合わせ年間平均 3,360 万円となっています。また、校舎改築や給食センター改築等に伴い、その他の施設整備費として年間平均 9,700 万円の支出となっており、施設関連経費としては、年間平均で約 13,100 万円の支出となります。

<施設修繕費>

(円)

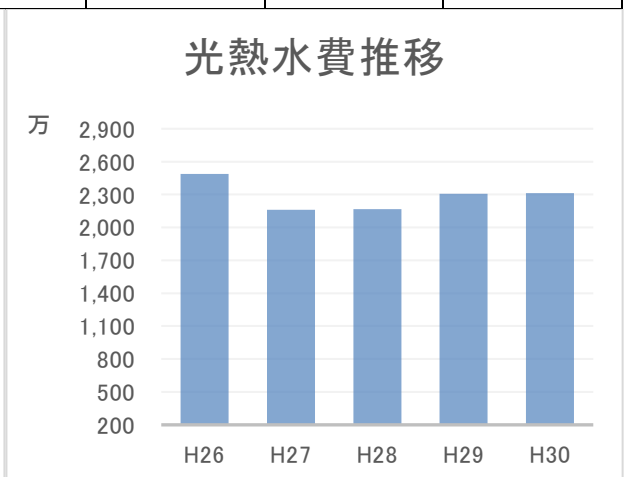
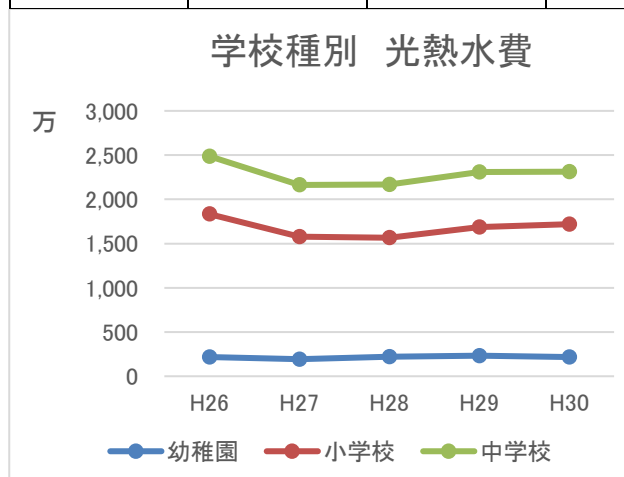
	H26	H27	H28	H29	H30	平均
幼稚園	575,232	1,599,026	390,963	1,030,603	1,278,313	974,827
小学校	6,770,794	5,363,586	4,916,532	7,292,733	6,825,439	6,233,817
中学校	3,403,222	3,965,006	3,320,352	3,393,674	3,463,063	3,509,063
合 計	10,749,248	10,927,618	8,627,847	11,717,010	11,566,815	10,717,708



<光熱水費>

(円)

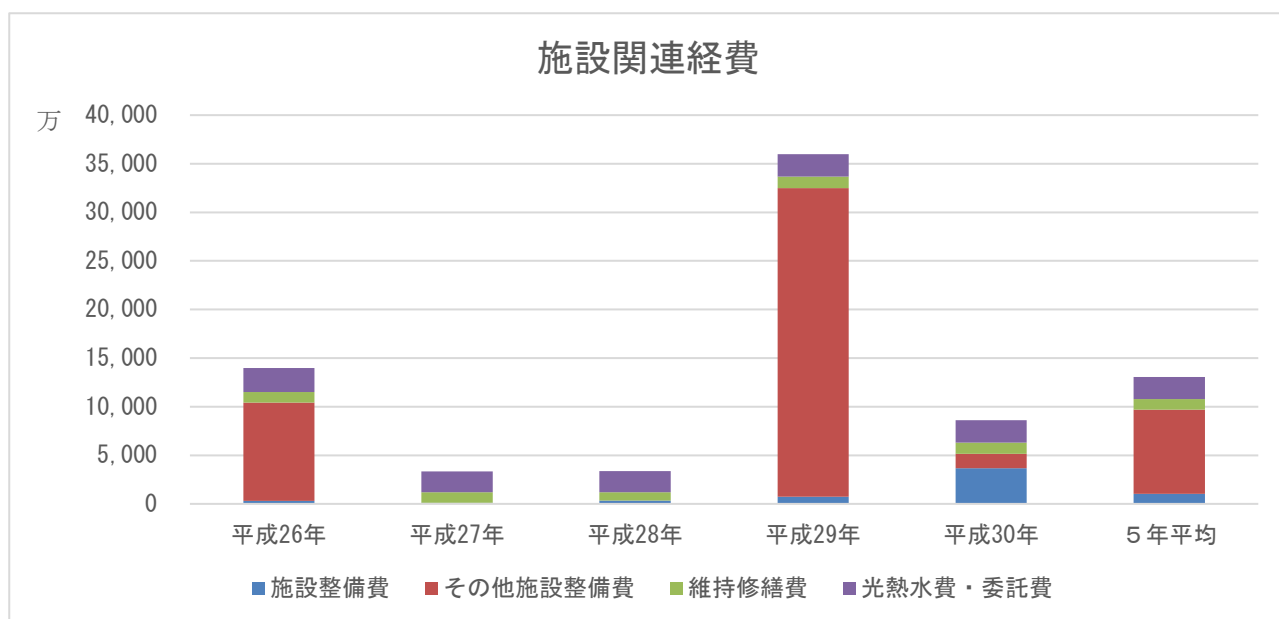
	H26	H27	H28	H29	H30	平均
幼稚園	2,188,561	1,931,611	2,196,496	2,326,304	2,172,177	2,163,030
小学校	16,141,657	13,830,492	13,460,949	14,538,466	15,012,704	14,596,854
中学校	6,542,338	5,862,479	6,007,594	6,214,930	5,932,604	6,111,989
合 計	24,872,556	21,624,582	21,665,039	23,079,700	23,117,485	22,871,872



<施設関連経費>

(円)

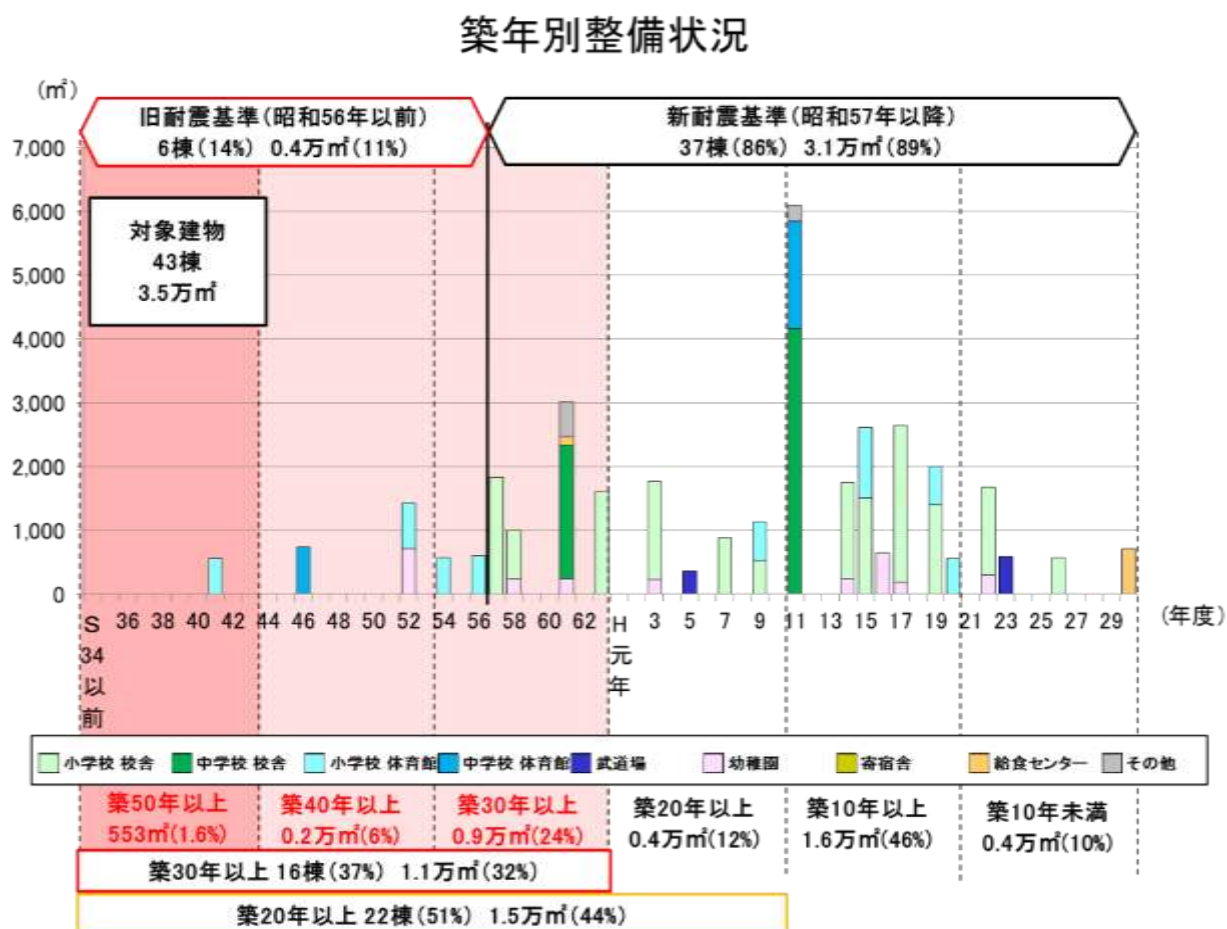
	H26	H27	H28	H29	H30	5年平均
施設整備費	2,986,200	974,160	3,450,600	7,482,580	36,737,000	10,326,108
その他施設整備費	101,313,000	0	0	317,529,600	14,738,000	86,716,120
維持修繕費	10,749,248	10,927,618	8,627,847	11,717,010	11,566,815	10,717,708
光熱水費・委託費	24,872,556	21,624,582	21,665,039	23,079,700	23,117,485	22,871,872
施設関連経費合計	139,921,004	33,526,360	33,743,486	359,808,890	86,159,300	130,631,808



- ※ その他施設整備費は、平成 26 年度に仕七川小学校（南校舎）改築工事の精算、平成 29 年度に久万学校給食センター改築工事を実施したため、経費が大幅に増加しています。
- ※ 平成 31 年度にエアコン整備工事を実施したことにより、今後、光熱水費の電気使用料が増額になることが予想されます。

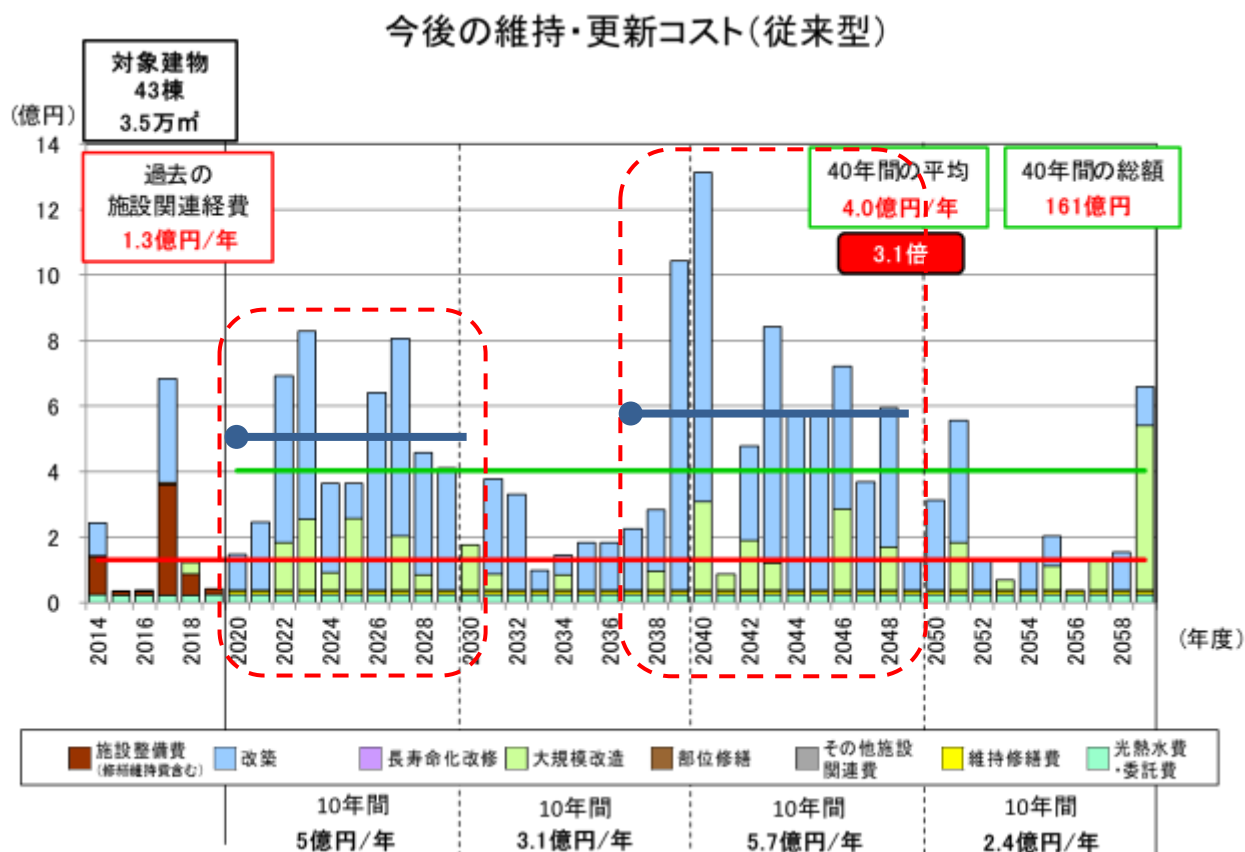
5) 学校施設の保有量

計画対象の小中学校等は、築30年以上の建物が1.1万㎡と施設全体の32%を占めています。10年後にはおよそ半数の施設が30年以上経過した建物となり、計画的かつ適切な老朽化への対応を行っていく必要があります。現在、築50年以上の建物は1棟（畑野川小学校体育館）ありますが、平成22年に外部の再塗装など対応がとられています。しかし、内部改修等については未対応であり、床板の反りなど、老朽化等による不具合も発生していることから、今後の方針を検討する必要があります。また、その他の建物も40年を超えていくことから、建物の状況を確認し、長寿命化による対応を検討する必要があると考えられます。



6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

40年で建て替える従来の修繕を今後も続けた場合、今後40年間のコストは161億円(4.0億円/年)かかる見込みとなります。これは、直近5年間の投資的経費1.3億円/年の3.1倍となります。また、2022年から2032年の10年間、2039年から2052年の12年間は改築が集中するため投資的経費の4～4.5倍のコストがかかる見込みとなります。従来の建替え中心の整備を継続することは不可能であり、対応策を検討する必要があります。



＜試算条件＞

改築は、更新周期40年、工事期間2年、改築単価330,000円/㎡、大規模改修は改修周期20年、工事期間1年、改修単価は170,000円/㎡（改築単価の6割程度）として、試算しています。

②学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

<調査・評価方法>

劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上や外壁は目視状況により、内部仕上り・電気設備・機械設備は、部位の全面的な設置（改修）年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価します。

<評価基準>

- ・目視による評価【屋根、屋上、外壁】
- ・経過年数による評価【内部仕上り、電気設備、機械設備】

目視による評価

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生兆しの兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経年劣化に関わらず著しい劣化現象がある場合

<健全度の算定>

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。

なお、②部位のコスト配分は文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改築比率を参考に、同算定評における「長寿命化」の7%を、屋根、屋外、外壁に按分して設定しています。

①部位の評価

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	評価点
1. 屋根・屋上	5.1
2. 外壁	17.2
3. 内部仕上り	22.4
4. 電気設備	8
5. 機械設備	7.3
計	60

③健全度の算定

$$\text{健全度} = \text{総和} (\text{部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分}) \div 60$$

※健全度は数値が進んでいることを示します。

健全度の計算例

部位	判定	評価点	コスト配分		
屋根・屋上	C	40	5.1	×	204
外壁	D	10	17.2	×	172
内部仕上り	B	75	22.4	×	1680
電気設備	A	100	8	×	800
機械設備	C	40	7.3	×	292
計					3,148
					÷ 60
健全度					52 点

建物情報一覧表

 : 築50年以上
 : 築30年以上
 基準 2019

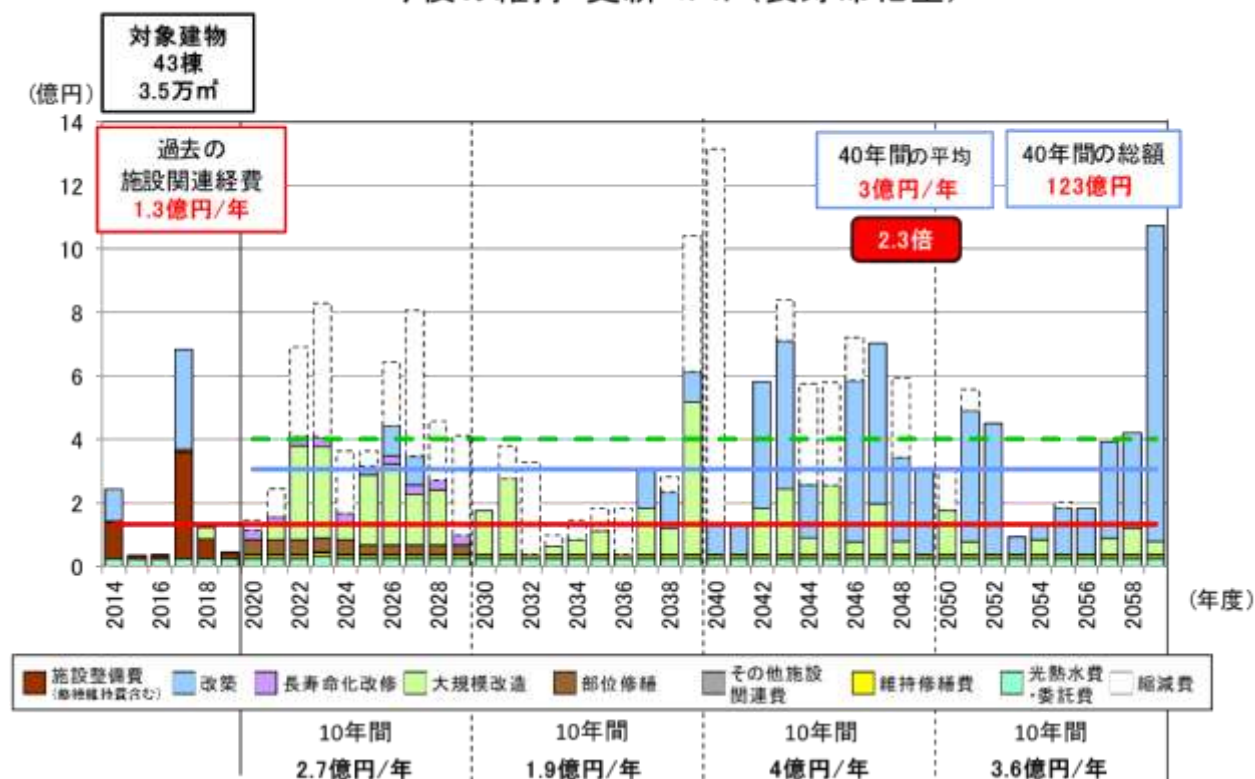
 : 概ね良好
 : 広範囲に劣化
 : 部分的に劣化
 : 早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考			
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資 産台帳 番号	用途区分 学校種別	建物用途	構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上		電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)
											西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)	試算上 の区分							
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資 産台帳 番号	学校種 別	建物用 途	構造	階 数	延床面 積(㎡)	西 暦	和 暦	築年 数	基 準	診 断	補 強	調 査 年 度	圧縮 強 度	試算上 の区 分	屋 根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100 点満点)	備考
1	287	明神小学校	屋内運動場	10		小学校	体育館	R	1	598	1981	S56	38	旧	済	済				C	C	C	C	C	40	
2	287	明神小学校	校舎	11		小学校	校舎	R	2	762	1983	S58	36	新	-	-				C	B	B	B	C	68	
3	287	明神小学校	校舎	12		小学校	校舎	W	2	887	1995	H7	24	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
4	288	久万小学校	屋内運動場	11		小学校	体育館	R	1	713	1977	S52	42	旧	済	済				D	D	C	C	C	29	
5	288	久万小学校	校舎	13		小学校	校舎	R	3	902	1982	S57	37	新	-	-				C	B	C	C	C	50	
6	288	久万小学校	校舎	13		小学校	校舎	R	3	927	1982	S57	37	新	-	-				C	B	C	C	C	50	
7	288	久万小学校	校舎	15		小学校	校舎	W	2	1,406	2007	H19	12	新	-	-				A	B	A	A	A	93	
8	290	畑野川小学校	屋内運動場	2		小学校	体育館	S	1	553	1966	S41	53	旧	済	済				B	B	D	C	C	42	
9	290	畑野川小学校	校舎	8		小学校	校舎	W	2	1,607	1988	S63	31	新	-	-				B	B	B	B	C	71	
10	291	直瀬小学校	校舎	9		小学校	校舎	W	2	1,536	1991	H3	28	新	-	-				B	C	B	B	C	61	
11	291	直瀬小学校	教員住宅	14		小学校	その他	W	1	152	1994	H6	25	新	-	-				B	C	C	B	C	48	
12	291	直瀬小学校	屋内運動場	16		小学校	体育館	W	1	559	2008	H20	11	新	-	-				A	B	A	A	A	93	
13	292	父二峰小学校	校舎	9		小学校	校舎	W	1	1,520	2002	H14	17	新	-	-				B	B	B	A	A	81	
14	292	父二峰小学校	屋内運動場	15		小学校	体育館	W	1	598	2007	H19	12	新	-	-				B	B	B	A	A	81	
15	298	面河小学校	校舎	1		小学校	校舎	W	1	1,376	2010	H22	9	新	-	-				B	B	B	A	A	81	
16	299	仕七川小学校	校舎	14		小学校	校舎	R	2	527	1997	H9	22	新	-	-				B	B	B	B	C	71	
17	299	仕七川小学校	屋内運動場	15		小学校	体育館	R	1	607	1997	H9	22	新	-	-				B	B	B	B	C	71	
18	299	仕七川小学校	校舎	18		小学校	校舎	W	1	565	2014	H26	5	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
19	533	美川小学校	校舎	1		小学校	校舎	W	2	1,506	2003	H15	16	新	-	-				B	A	A	A	A	98	
20	533	美川小学校	屋内運動場	2		小学校	体育館	S	1	570	1979	S54	40	旧	済	-				A	A	B	C	C	75	
21	534	柳谷小学校	校舎	1		小学校	校舎	R	3	1,098	2005	H17	14	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
22	534	柳谷小学校	教員住宅	2		小学校	その他	R	4	404	1987	S62	32	新	-	-				B	B	B	B	C	71	
23	534	柳谷小学校	教員住宅	3		小学校	その他	S	2	267	1977	S52	42	旧	-	-				C	C	C	C	C	40	
24	534	柳谷小学校	教員住宅	4		小学校	その他	S	2	254	1979	S54	40	旧	-	-				B	B	C	C	C	53	
25	534	柳谷小学校	校舎	5		小学校	校舎	R	3	1,360	2005	H17	14	新	-	-				B	B	B	A	A	81	
26	534	柳谷小学校	屋内運動場	6		小学校	体育館	W	2	1,111	2003	H15	16	新	-	-				D	B	C	A	A	63	
27	3648	久万中学校	校舎	16		中学校	校舎	W	2	4,163	1999	H11	20	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
28	3648	久万中学校	屋内運動場	17		中学校	体育館	W	2	1,484	1999	H11	20	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
29	3648	久万中学校	連携施設	17		中学校	体育館	W	2	198	1999	H11	20	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
30	3648	久万中学校	部室	18		中学校	その他	R	1	250	1999	H11	20	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
31	3648	久万中学校	武道場	19		中学校	武道場	W	1	590	2011	H23	8	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
32	3804	美川中学校	校舎	1		中学校	校舎	R	3	1,849	1986	S61	33	新	-	-				C	B	B	B	C	68	
33	3804	美川中学校	校舎	2		中学校	校舎	W	1	235	1986	S61	33	新	-	-				C	C	C	B	C	45	
34	3804	美川中学校	屋内運動場	3		中学校	体育館	S	1	739	1971	S46	48	旧	済	済			長寿命	D	D	B	D	D	34	
35	3804	美川中学校	寄宿舎	4		中学校	寄宿舎	R	2	540	1986	S61	33	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
36	3804	美川中学校	武道場	15		中学校	武道場	S	1	370	1993	H5	26	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
37	3804	美川中学校	教員住宅	16		中学校	その他	R	2	172	1994	H6	25	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
38	6727	明神幼稚園	園舎	2		幼稚園	園舎	R	1	238	1983	S58	36	新	-	-				C	C	C	C	C	40	
39	6542	久万幼稚園	校舎	1		幼稚園	校舎	R	2	711	1977	S52	42	旧	済	-	H17 18.9	長寿命	D	C	C	D	D	30		
40	6725	畑野川幼稚園	校舎	2		幼稚園	校舎	R	1	242	1986	S61	33	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
41	6726	直瀬幼稚園	校舎	2		幼稚園	校舎	W	1	234	1991	H3	28	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
42	6766	父二峰幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	W	1	237	2002	H14	17	新	-	-				B	B	B	B	B	75	
43	6729	おもご幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	W	1	294	2010	H22	9	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
44	6767	仕七川幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	W	1	323	2004	H16	15	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
45	6755	美川幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	W	1	322	2004	H16	15	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
46	6769	柳谷幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	R	3	186	2005	H17	14	新	-	-				A	B	B	A	A	84	
47	K050	久万学校給食センター	共同調理場	1		給食センター	給食センター	S	2	711	2018	H30	1	新	-	-				A	A	A	A	A	100	
48	K051	美川学校給食センター	共同調理場	1		給食センター	給食センター	R	1	138	1986	S61	33	新	-	-				B	B	B	B	B	75	

2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

現在、築後 50 年を超える学校施設は 1 棟ありますが、大規模改修や部位修繕を適切に行い、すべての学校施設を長寿命化型（状況により一部改築対応）で進める場合は、今後 40 年間の整備コストは 123 億円（3 億円/年平均）と見込まれ、改築を前提とした従来型整備の方法と比較して、40 年間の整備コストを 38 億円節減することができますが、年平均 3 億円の事業費では財政負担に大きな課題が残ります。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



長寿命化改良事業の補助要件について(大規模改造(老朽)との比較)

長寿命化改修を実施するための国庫補助事業として「長寿命化改良事業」を平成 25 年度に創設

	長寿命化改良事業	大規模改造(老朽)事業
築年数	40 年以上	20 年以上
使用予定年数	30 年以上	30 年未満でも可
改修範囲	原則建物一棟全体 ※ 更新済みのものや従来、計画的に更新することが あまっているものは除く	内部・外部のいずれかの施工割合が 70%以上 もう一方が 50%以上
構造体の長寿命化	必ず実施	実施しなくてもよい
ライフラインの更新	必ず実施	実施しなくてもよい
その他長寿命化に必要な工事	原則実施	実施しなくてもよい

（４）学校施設整備の基本的な方針

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

１）学校施設の長寿命化計画の基本方針

施設を長く使うためには、適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのためには、施設や設備において、不具合が生じてから修繕や更新を行う「事後保全的な管理」と、施設や設備に不具合が生じる前から修繕や更新を実施することにより、健全度を維持し、長寿命化する「予防保全的な管理」がありますが、本計画においては、下記「久万高原町公共施設等総合管理計画における公共施設等の総合的な管理に関する基本的な方針」を受け、維持管理方法を「事後保全的な管理」ではなく、「予防保全的な管理」による施設の長寿命化計画を推進するとともに、中長期的な視点から、財政的な負担の縮減と平準化に向けた維持管理、修繕、更新等を実施します。

また、老朽化した建物や設備を単に建築時の状態に戻すだけでなく、財政状況を勘案した上で、トイレの乾式化や洋式化、照明設備のＬＥＤ化など、その機能や性能を現在の学校が求める水準、社会的ニーズに対応した水準にまで引き上げるよう検討します。

<久万高原町公共施設等総合管理計画>

「公共施設等の総合的な管理に関する基本的な方針」 一部抜粋

（１）新規整備は原則として行わない

（２）施設の更新（建替）はまず複合施設を検討する

（３）将来の施設の更新費用を縮減する

・施設を更新する時は床面積を縮小することを基本

（４）インフラ資産

- ・現状の投資額（一般財源）を維持、現状の投資額の範囲内で、費用対効果や経済波及効果を考慮し、新設及び改修・更新をバランスよく実施
- ・長寿命化を可能な限り図るとともに、計画的、効率的な改修・更新を推進、ライフサイクルコストを縮減

2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

久万高原町には、幼稚園 9 園、小中学校 11 校（小学校 9 校、中学校 2 校）を設置しています。人口は少ないものの面積及び交通条件からすると、配置バランスは確保されています。また、どの地域からも学校存続の意見が強く、現在配置を維持していく方針を第一としています。

1 適正配置と学校施設利用の方策

町内における学校の規模は、基本的に各学校の実情に応じたものとなっていることが多く、基本的に減築や取壊しは難しいことが多いと考えられます。これらを勘案して、園児・児童・生徒数の減少等により発生する幼稚園・学校の適正配置及び学校施設の利用については、次の 3 つを基本順位として検討します。

(1) 現状の規模や機能の維持及び校内活用

児童数等の減少により一時的な空き教室や、永年空き教室が発生した学校については、これらの空き教室について、学校内において多目的な視点から、展示室やランチルーム、特別活動室など校内利用を基本とした維持を図ることを基本とします。

(2) 他の公共施設との複合化

上記(1)による活動が継続し難く、今後においても利用の見込みがない場合は、公民館等の施設との複合利用を視野に検討を行い、施設の維持を図っていきます。

この場合においては、学校関係者以外の第三者との共存利用となることから、児童等の安全や教育環境の確保、セキュリティの徹底等を行うことが重要となってくるため、慎重な検討が必要です。

他施設や第三者との共存を実現できた場合は、児童等の成長にもプラス作用が働くことが期待できると考えます。

(3) 学校統廃合

児童数の減少に伴い学校継続の極度的な維持困難や、地域からの要望等が強くなった場合においては、学校統合等の検討を行います。

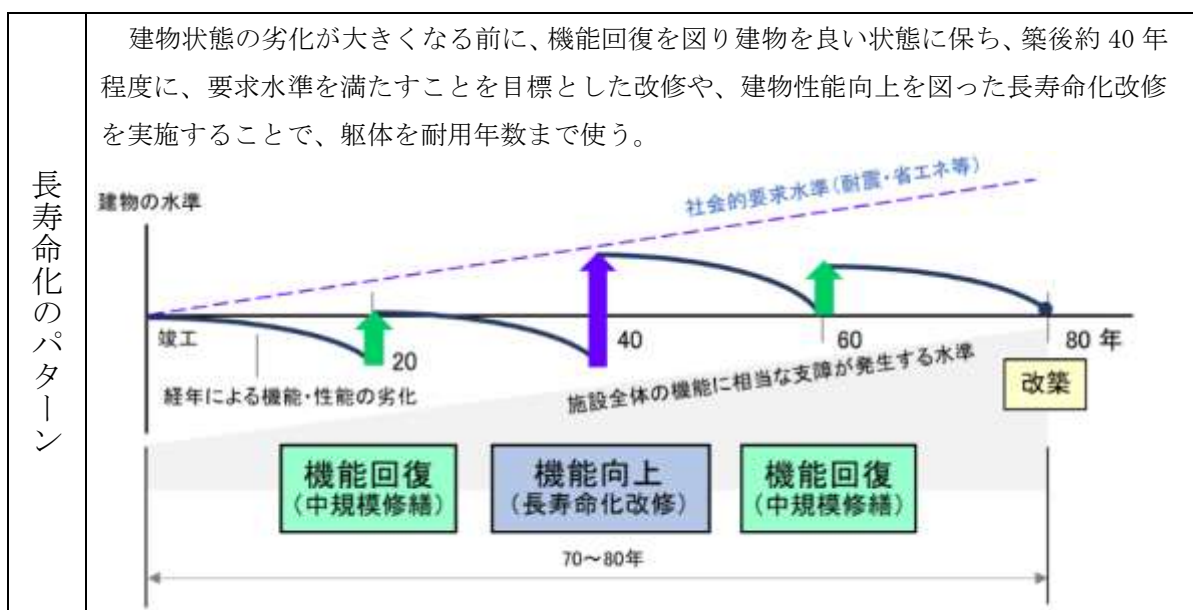
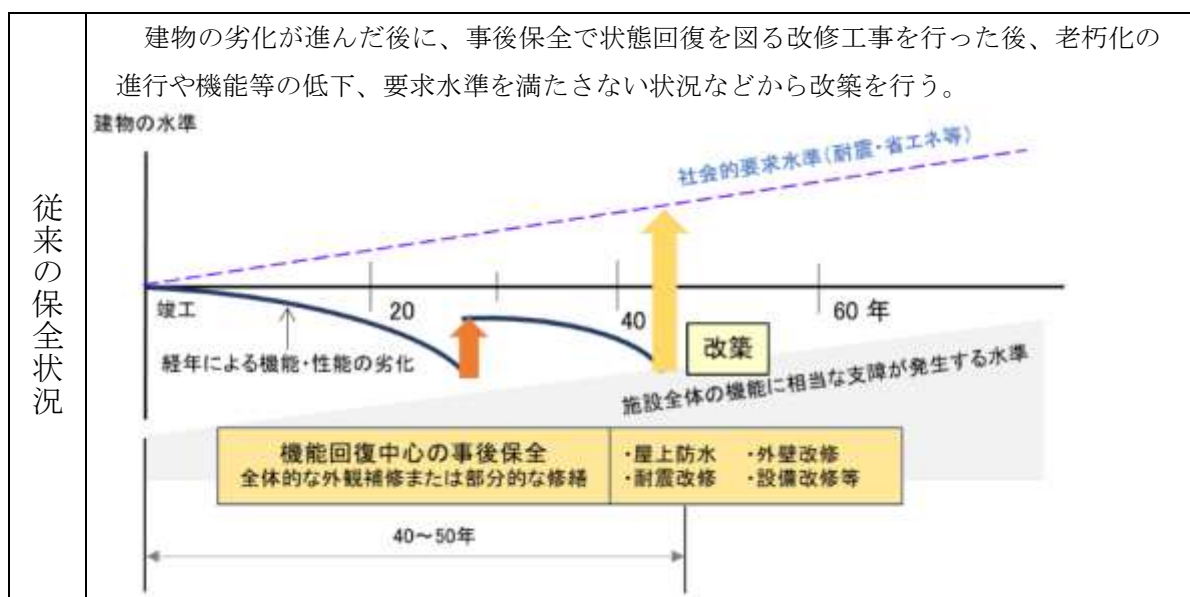
学校施設については、基本的に他施設への転用や貸付、譲渡など多角面からの利用方法を検討しますが、建物自体の老朽化が著しく危険性が高い場合は取り壊しも方針の一つとして考えます。

② 改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

これまでは、部位改修や部分修繕、築 20 年程度で外観等の全体改修を行いながら、改修と改築の費用差が少ない状態まで全体の劣化状況等が進んだ後（築 45 年程度）に、建て替えを行っていましたが、今後は長寿命化改修を基本方針とした整備を行い、建物の健全度を維持することで、これまで以上の長期使用を図ります。

改修方針としては、築 20 年程度で全体の機能回復を目的とした大規模改修を実施し、築 40 年程度で機能性の向上や社会的要求も踏まえた長寿命化改修を行い、築 60 年を目安に再び機能回復を主とした大規模改修を行うことで、80 年の施設使用を目標とした保全へと変更を図るものです。



◎長寿命化実施の不可を判断する建物劣化状況等の基準項目

- ・鉄筋コンクリートや木造にあっては、基本構造材の劣化（木材においては腐食等）状況が著しく、改修に多額の費用を要し、改築同等または上回る費用となる場合。
- ・コンクリート強度が著しく低い場合（おおむね 13.5N/mm^2 以下）
- ・基礎の多くの部分で鉄筋が腐食している場合。
- ・校地環境の安全性が欠如している場合。
- ・建物の配置に問題があり、改修によっては適切な教育環境を確保できない場合。
- ・学校の適正配置など地域の実情により、改築せざるを得ない場合。

※ 上記の要件に当てはまらない場合でも、建物の全体的な劣化状況や今後の運用方針等を踏まえ検討した上で、改築が望ましいと判断された場合は、改築を行う場合があります。

◎長寿命化を図る上での改修概要

築 20 年目（中規模修繕）

経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事

- ・外壁塗装（汚れ・カビ除去）
- ・設備機器更新や修繕
- ・劣化の著しい部位の修繕
- ・故障や不具合修繕

築 40 年目（長寿命化改修）

経年劣化による機能回復工事と社会要求に対するための機能向上工事

- ・屋根防水改修（ルーフィング張替え等）
- ・外壁改修（断熱化）
- ・内部改修（壁・床・天井・建具）
- ・設備改修
- ・グラウンド等周辺改修 等

築 60 年目（中規模修繕）

経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事

- ・外壁塗装（汚れ・カビ除去）
- ・設備機器更新や修繕
- ・劣化の著しい部位の修繕
- ・故障や不具合修繕

2) 目標使用年数、改修周期の設定

◎学校施設の目標使用年数、大規模改造・長寿命化改修の周期は次のとおりとします。

構 造	目 標 使 用 年 数	大 規 模 改 造 の 周 期	長 寿 命 化 改 修 の 周 期
木 造	80年以上	20～25年	40～45年
RC造	80年以上	20～25年	40～45年
S造	80年以上	20～25年	40～45年

構造の違いも含め、校舎、体育館ともに同様の改修周期と使用年数とします。

木造においては、外壁木部の防虫・防腐等のから定期的な塗装行うのが望ましいと考えますので、その周期は他の構造より早くなる可能性もありますが、木造も塗装状態と木材自体の状態、シロアリ発生の有無や躯体への影響の有無などを確認しながら、必要に応じ計画の見直しを行うものとします。

体育館においては、外壁の塗装は校舎と同じ考え方となりますが、内部におけるアリーナ床板の塗膜の劣化は、使用において支障を生じる可能性が大きくなることから、維持管理を徹底する必要性があり、早期の対応を図る必要性が生じる場合もあります。なお、長寿命化改修においては、従前と違う材（既設材への上張りシートなど）への見直し等の検討も行い、メンテナンスを含めた、より長期の安全性・耐久性を目指します。

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

改修に際しては、老朽化した建物や設備を単に建築時の状態に戻すだけでなく、高耐久塗料や給排水管の更新等により建物の耐久性を高めるとともに、トイレの洋式化や乾式化、照明設備のLED化など、その機能や性能を現在の学校が求める水準にまで引き上げます。また、費用対効果やその他学校の状況等も考慮の上、屋根・壁の断熱、開口部の断熱（複層ガラスや2重サッシ等）など、省エネルギー対策も検討します。

- 1) 安全面 躯体のクラック、鉄筋補修
屋上・屋根防水改修、外装全面改修、内装全面改修 等
- 2) 機能面 受変電、給排水、照明設備等の更新、
トイレ改修（乾式化、洋式化、多目的トイレ） 等
- 3) 環境面 設備の効率化（LED化）、建物断熱性の向上 等

<改修水準>

		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
外部仕上げ	屋根・屋上	・アスファルト防水 ・外断熱 ※RC、S造 75mm以上、 熱伝導率0.030W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 100mm以上 熱伝導率0.038W/(m・k)以下	・アスファルト防水 ・外断熱 ※RC、S造 50mm以上 熱伝導率0.035W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 100mm以上 熱伝導率0.045W/(m・k)以下	・改質アスファルト防水 ・外断熱 ※RC、S造 25mm以上 熱伝導率0.040W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 50mm以上 熱伝導率0.050W/(m・k)以下	・シート防水、塗膜防水 ・断熱なし
	外壁	・外壁塗装 フッ素系塗料 耐候形防水形複層塗材 ・外断熱 ※RC、S造 75mm以上、 熱伝導率0.030W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 100mm以上 熱伝導率0.038W/(m・k)以下	・外壁塗装 シリコン系塗料 防水形複層塗材E ・外断熱 ※RC、S造 50mm以上 熱伝導率0.035W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 100mm以上 熱伝導率0.045W/(m・k)以下	・外壁塗装 ウレタン系塗料 複層仕上塗材E ・外断熱 ※RC、S造 25mm以上 熱伝導率0.040W/(m・k)以下 ・充填断熱 ※W造 50mm以上 熱伝導率0.050W/(m・k)以下	・外壁塗装 アクリル系塗料 リシン吹付等 ・断熱材 なし
	外部開口部	・サッシ交換 樹脂サッシ 複層ガラス 〔空気層10mm以上〕 〔Low-E、Arガス〕	・サッシ交換 複層ガラス 〔空気層6mm以上〕 〔Low-E〕	・既存サッシでガラス交換 複層ガラス等	・サッシ、ガラス既存のまま 〔目地打替え〕 〔パッキン取替〕
	その他	・日射抑制措置 (外付けブラインド)	・日射抑制措置 (外付けブラインド)	・日射抑制措置 (庇、オーニング等)	—
内部仕上げ等	床・壁・天井 (教室・廊下等)	・内装全面撤去・更新 (木質化)	・内装全面撤去・更新 (木質化)	・床補修 ・天井、壁塗替え(張替)	・既存のまま (部分補修)
	便所	・内装全面撤去・更新 (ドライ化)	・内装全面撤去・更新 (ドライ化)	・床補修 ・天井、壁塗替え(張替) ・ブース更新	・既存のまま (部分補修)
	建具	・新設(既存撤去)	・新設(既存撤去)	・建具全面補修 ・塗替え	・既存のまま (部分補修)
その他	機械設備	・省エネ型設備等へ更新 (照明はLED化)	・省エネ型設備等へ更新 (照明はLED化)	・既設同等品へ更新	・既存のまま (部分補修)
	ライフライン	・配管等全面取替 高耐久性材 ※以後の管理面を含め検討	・配管等全面取替 ※以後の管理面を含め検討	・既設同等品への部分更新	・既存のまま (部分補修)

※ 次の項目についても、改修時に併せて検討を行う。

- ・校内LANの更新・無線LAN化
- ・防災・避難所運営に関する設備等
- ・多様な学習形態に対応した学習の場への対応

② 維持管理の項目・手法等

通し番号	XXXX-XX-X				
学校名	A学校	学校番号	1301	調査日	平成28年9月20日
建物名	校舎	記入者			〇〇
棟番号	1	建築年度	昭和44 年度 (1969 年度)		
構造種別	鉄筋コンクリート造	延床面積	2,562 m ²	階数	地上 3 階 地下 0 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の変更)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☒ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()	H7	防水改修	☐ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☒ 茎木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフィングを目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある	2	EXP-J金物に脱落がある	C
2 外壁	☒ 塗仕上げ ☒ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁 () ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス	H3 H10	外壁改修 耐震補強	☒ 鉄筋が見えているところがある ☒ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☒ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐食 ☐ 既存点検等で指摘がある	5 多数	北側の劣化	D

部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☒ 老朽改修 ☐ エコ改修 ☐ トイレ改修 ☐ 法令適合 ☐ 校内LAN ☐ 空調設置 ☐ 障害光等対策 ☐ 防犯対策 ☐ 構造体の耐震対策 ☐ 非構造部材の耐震対策 ☐ その他、内部改修工事	H5	大規模改修	B
4 電気設備	☒ 分電盤改修 ☐ 配線等の敷設工事 ☒ 昇降設備保守点検 ☐ その他、電気設備改修工事	H22 H18	指摘無し	A
5 機械設備	☐ 給水配管改修 ☐ 排水配管改修 ☒ 消防設備の点検 ☐ その他、機械設備改修工事	H27	指摘への対応済み	C

各施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、本計画策定の際に作成した劣化状況調査票を活用し、今後も継続的に点検・評価を実施していきます。

なお、点検・評価については3～5年の周期で実施し、特に劣化が進んでいる施設は点検を重点的に行い、財政や町全体の施策との調整を図りながら、計画的な部位修繕を実施し、教育環境水準の維持を図っていきます。

専門業者に定期点検委託

- ・ 消防設備
- ・ 高圧受電設備
- ・ 受水槽
- ・ 浄化槽
- ・ 昇降機
- ・ 建物の劣化診断等

(6) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画

現状において、建築後 40 年を超えた建物が 4 棟（畑野川小学校体育館、美川中学校体育館、久万幼稚園舎、久万小学校体育館）あり、その他今後 10 年を目途に、建築後 40 年を経過する建物（明神小学校体育館、久万小学校北校舎など）が急増することから、学校施設の適正化を図りながら、長寿命化改修を進めていく必要があるといえます。

まず、建築後 40 年を超えた施設の長寿命化を検討するにあたり、各施設の状況を確認し、優先順位を決定しましたので、これにより長寿命化改修を進めていきます。

施設名	築年数	優先順位	状 態 等
畑野川小学校体育館	53 年	5	平成 22 年度に外部の全体改修を行っており、躯体の状態保全がされていますが、建具や内部は未改修のため、扉や窓、床板の劣化等が見受けられます。
美川中学校体育館	48 年	1	平成 10 年に内外部の大規模改修を実施しており、内部は比較的良好なものの外部に関しては劣化が著しく、改修が必要な状況です。 (※アレルギー過敏症生徒を考慮し、工事時期は検討が必要)
久万幼稚園園舎	42 年	2	コンクリート亀裂（一部浮き）が見られるほか、屋上防水の劣化が進み 2 階保育室で雨漏りが発生するなど、早急な対応が必要な状況となっています。
久万小学校体育館	42 年	4	内部は比較的良好なものの、外壁・屋根の塗装劣化が見られ、雨漏りが玄関付近で発生しています。
明神小学校体育館	38 年	6	内部は比較的良好なものの経年劣化が各所に見受けられ、外部は外壁塗装に劣化等が見られます。
久万小学校北校舎	37 年	3	外部は比較的良好な状態を保っているものの、内部は各所で経年劣化が進んでおり、児童の学校生活に影響が考えられ、対応が望まれます。

※ 久万幼稚園は昨今の保育情勢における子ども園化や複合施設化の検討を要しており、長寿命化対応が困難な場合、改築を視野に入れなくてはなりません。また、築 40 年を迎えてくる建物の状態も考慮・比較しながら、改修を図っていく必要もあります。

② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

～維持・更新の課題と今後の方針～

(3) の 2) で設定したように、耐用年数 40 年として改築を行う場合と、大規模改修を実施した上で耐用年数を 80 年に延ばす長寿命化を実施した場合の費用比較を行うと、将来 40 年間ににおける維持・更新コストは総額 161 億円から、総額 123 億円の縮減を図ることができ、年間 1 億円の縮減となります。

しかし、長寿命化を図ることで費用の縮減を図った場合においても、年 3 億円のコストは、久万高原町の財政状況から考えると大変厳しいものといえます。

現状においては、今後の園児や児童・生徒数は減少していく予測がされるものの、建物の維持・修繕コストはその現象に変わりなく発生し、整備費用の縮減を図ることは学校施設数の現状維持を考えた場合、困難なものといえますので、将来的においては、学校統合を検討する必要も考えられます。

このことから、学校施設は長寿命化でコストの縮減と維持を図る一方、社会体育施設を含めた公民館など、教育委員会部局所管の施設や、町長部局所管の他施設との統合や併用、複合化などを視野に検討を図っていかなくてはならないと考えます。

(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

施設マネジメントシステムを活用し、各施設の基本情報や工事履歴や劣化情報の管理、過去の改修・交換履歴、故障の発生を蓄積していくとともに、建築基準法で定められた定期的な安全点検等の結果も反映し、情報の一元化を図ることで、適切な整備を行います。

② 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会学校教育班を中心に本計画を含むマネジメントを行っていきませんが、必要に応じて施設検討委員会等を活用して、対応を図っていきます。

また、日常の施設管理の質を向上するため、学校における日常点検において、不具合箇所の早期発見及び対応を図っていきます。(小さな修繕は学校において実施し、状況に応じて教育委員会事務局が主体に対応して、施設の健全な維持管理を行います。)

- | | | |
|---------------|---|-----------------|
| ○全体計画及び大規模工事等 | → | 教育委員会学校教育班 |
| ○計画内容の検討・協議 | → | 教育委員会・施設検討委員会など |
| ○小規模部分修繕・日常点検 | → | 各学校(園)教職員など |

③ フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位、長寿命化や整備等の方向性を決定するものです。整備に当たっては、久万高原町内の他部局の施設の改修や建替え計画などを勘案し、財政担当部局との協議・調整のもと、事業費や実施時期を精査していきます。

本計画は5年を目途にフォローアップを実施し、学校からの要望や報告などを反映しながら、必要に応じて計画の見直し・更新を図ります。(ただし、緊急を要する事項については、その都度検討し対応します。)

